

問 水道広域化、 メリットはあるのか

答 県は広域、事業の一元化を目指す

問 「水」は、住民の暮らしと健康に直結する大切なもの。国や県の方針とはいえ、安易に広域化を進めるべきではないと考えるが。

答 令和3年度策定の茨城県水道ビジョンでは、30年後の姿を「1県1水道」に。県主導で経営一本化へ向けた地域部会が開かれ、現状整理を開始した。

問 東海村には、久慈川河川水と県中央広域水道（那珂川）の2つの水源がある。災害時にも強い。住民不在の計画とならないように取り組むべき。



光風会
恵利 いつ 議員



久慈川を水源とする石神浄水場
他に県中央水道ともつながっている

答 水道の安心安全は、住民生活に大きな影響を与える事項である。住民の意見反映が原則と考えている。

問 ごみ予約制導入、住民への影響は

答 周知徹底で徐々に収束と見込む

問 土曜日の予約枠から外れた人への対応は、村の清掃センターで一時的に予約できないか。

答 予約が空いている日や予約不要な平日・祝日を案内。一定期間の状況を見て、対応を協議・検討する。

問 3歳児健診 屈折検査機器導入を

答 今年度内導入を目指し取り組む

問 「屈折検査機器」は、1メートル離れた場所に座った子どもが数秒間、検査機器の光を注視するだけで、①近視、②遠視、③乱視、④斜視などの測定ができるものである。その結果、精密検査が必要な子どもを、より早い時期の治療につなぐことができる。3歳児健診で「屈折検査」の導入を求める声がある。本村の考えを伺う。

答 子どもの視覚機能は、3歳ごろまでに急速に発達し、6歳から8歳ごろまでにほぼ完成することから、視力



公明党
おかざき けんじ 議員

の判定がある程度可能となる3歳児健診において弱視等を発見し、小学校低学年までに適切な治療を受けることが弱視対策として重要である。そこで屈折機能や斜視等の発見につながる眼位の異常を簡便にスクリーニングできる「屈折検査機器」による検査の導入が必要と考える。現在、国は各種検診に必要な備品の整備の支援をしていることから、国庫補助金を活用し、「屈折検査機器」の今年度中の導入に取り組む。



屈折検査機器を用いると、3歳児の視力検査が充実